

宗教改革で生まれた 新しいキリスト教



16世紀

ドイツから始まった
宗教改革の動きは、西欧に
君臨してきたローマ教皇の
権威を揺さぶった。

教皇の権威への異議申し立て
から生まれたプロテスタント

教会の腐敗や教皇への批判から始まった宗教改革は、教皇と皇帝の権威を揺るがし、国際政治における主権国家体制の確立を後押しすることとなった。

1514年、1517年

贖宥状販売

ローマ教皇はこれまでしばしば贖宥状(免罪符)を販売していたが、レオ10世はサン=ピエトロ大聖堂の改修のためこれを乱発した。

1517年

95か条の論題

ルターが発表し、それがまたたく間に人々の間に広まった。

1521年

ヴォルムスの帝国議会

自説の撤回を求められるが、ルターはこれを拒否。以後、反神聖ローマ皇帝派諸侯の支持を得た。

1522年

聖書のドイツ語訳

ザクセン選帝侯フリードリヒにたくまわれたルターは、新約聖書のドイツ語訳を完成。これは活版印刷によって普及した。

1534年

首長法制定

王妃との離婚をローマ教皇に反対されたイギリスのヘンリ8世は、自分を首長とするイギリス国教会を成立させ、教皇と絶縁した。

1534年

イエズス会設立

カトリック教会の刷新を唱えるロヨラやザビエルらが設立。厳格な規律の下、世界各地で布教を進めた。

1545~63年

トリント公会議

カトリック教会の立て直しを図った公会議。教皇権の至上と教義を再確認。

1555年

アウグスブルクの宗教和議

ルター派が公認され、諸侯や自由都市単位で宗派を選択する権利が認められた。

宗教改革の流れ

1510年



マルティン=ルター

宗教改革 始まる

1520年

プロテスタント

1524年~25年

ドイツ農民戦争

ルターの宗教改革に触発されたドイツの農民が、トマス=ミュンツァーらの指導の下、農奴制廃止などを求めて蜂起。ルターは諸侯に蜂起の徹底的鎮圧を求めた。

カトリック

1530年

イギリス国教会

イングランド教会ともよばれる。教義的にはプロテスタントだが、儀礼面ではカトリック的傾向が強い。

ルター派

聖書中心主義、万人祭司主義をとり、聖職者身分を否定する。既存の世俗権力や社会秩序は承認する。

1540年

カルヴァン

カルヴァン派

予定説を説き、利潤追求を認めたため、商工業者たちに広まる。フランスではユグノー、イングランドではピューリタン、オランダではゴイセンとよばれた。

1550年

1560年

一方、スイスのジュネーヴでは『キリスト教綱要』を著したカルヴァンが改革を開始。彼は、人が救われるか否かは神によってあらかじめ定められているという予定説を唱え、人は神の救済を信じて規律正しい生活と職業にはげむべきだと説いた。またイギリスでは、王妃との離婚問題からヘンリ8世が首長法を定め、国王を首長とするイギリス国教会を成立させた。これに対してカトリック教会は、トリント公会議で態勢を立て直しを図り、対抗宗教改革を行った。

を得るため、カール5世はルター派を認めたが、危機が去ると再びこれを禁じたため、ルター派の諸侯らがこれに抗議し、プロテスタント(抗議する人)とよばれるようになった。こうした対立ののち、ルター派は55年のアウグスブルクの宗教和議で公認されることとなった。

1517年、ドイツの神学者マルティン・ルターは、サン・ピエトロ大聖堂の改修費を賄うためにローマ教皇レオ10世が贖宥状(免罪符)を販売したことを批判し、95か条の論題を発表して、「人は信仰のみによって救われる」と主張した。教皇はルターを破門し、神聖ローマ皇帝カール5世もヴォルムスの帝国議会で自説の撤回を求めたが、ルターはこれを拒否。ルターの説はやがて、反皇帝派の諸侯や都市の住民、農民などの支持を得た。その後オスマン帝国の圧迫に際して諸侯の協力を得るため、カール5世はルター派を認めたが、危機が去ると再びこれを禁じたため、ルター派の諸侯らがこれに抗議し、プロテスタント(抗議する人)とよばれるようになった。こうした対立ののち、ルター派は55年のアウグスブルクの宗教和議で公認されることとなった。

教会の腐敗や教皇への批判から始まった宗教改革は、教皇と皇帝の権威を揺るがし、国際政治における主権国家体制の確立を後押しすることとなった。

Key Word

対抗宗教改革

宗教改革に対抗した、カトリック教会内部の改革。1545年からイタリアのトリントで公会議を開き、教会の刷新や規律の再構築を進め、教皇を頂点とするカトリックの秩序と権威を回復させた。34年に結成されたイエズス会は対抗宗教改革の中心となり、厳格な規律の下で布教活動に努め、日本を含む東アジア諸国にもカトリックを広めた。